



優勝 塩山市民病院①チーム

【山梨厚生会職員親睦：ソフトバレー大会より】

## ■ 山梨厚生病院の今

がん診療連携拠点病院として ~緩和ケアチームがスタート~

■ 各科だより…… 呼吸器科・循環器科

■ 病棟紹介…… 1-3病棟 (内科・循環器科・呼吸器科・皮膚科)

■ リハビリテーション室を宜しく願います。

## ■ 院内サークル紹介

一緒に始めましょう…… 手話サークル

Shall we 生け花…… 華道サークル

■ その他…… ストレス相談室「ゆうゆう」・山梨厚生会ソフトバレー大会



■ 編集・発行 ■

山梨厚生病院 広報委員会  
 TEL 0553-23-1311  
 URL <http://www.kosei.jp/>

# 山梨厚生病院の今

～「がん診療連携拠点病院」として～

院長 千葉成宏



山梨厚生病院が峡東地域の「がん診療連携拠点病院」に指定されたことは前にもお伝えしましたが、今年6月には「がん対策推進基本計画」が国から発表されました。この計画は全体目標として、①がんによる死亡者の減少、②全てのがん患者・家族の苦痛の軽減と療養生活の質の向上、を掲げています。がん患者さんを含めた国民、地域住民の視点に立ったがん対策を実施しようというものです。この基本計画の中には、具体的に取り組むべき施策や個別目標がいくつかありますが、「がん医療及びがん医療機関の整備」、「がん医療に関する相談支援や情報提供」もその中のひとつとしてあげられています。

がん医療整備では、放射線療法や化学療法の推進、緩和ケアや在宅医療への取り組み強化、診療ガイドラインの作成などがあり、医療機関の整備としては、がん診療拠点病院を指定し、そこが地域におけるがん医療の中心になって専門的な医療を行うとともに、診療連携や医療従事者への研修を実施することとしています。また併せて、がん医療に関する相談支援や情報提供を行うことも拠点病院の大きな役割のひとつとされています。当院では今、拠点病院としてこれらの課題に積極的に取り組んでおり、前号（第3号）ではその一端として相談支援体制＝「総合相談センター」をご紹介させていただきました。今回は、緩和ケアに関しての取り組みについてご紹介します。

## \* 緩和ケアについて

緩和ケアは、従来、がんの終末期で治療の見込みのない患者さんを対象に、少しでもその苦痛を緩和することを目指して行われてきましたが、次第に考え方が変わってきています。身体症状（疼痛等）の緩和や精神的な問題への援助などを、がんそのものへの積極的な治療と平行して初期の段階から行うことが求められるようになってきています。これに対応すべく当院では「緩和ケアチーム」を編成しがんの患者さんに積極的にアプローチすることを始めています。

「緩和ケアチーム」は、内科、外科、泌尿器科、麻酔科、精神科などの医師及び看護師、薬剤師、臨床心理士、社会福祉士などの多職種の職員で構成され、幅広い問題に対応が可能です。がんの告知を受け入院された患者さん全てを対象に、緩和ケア問診表をもとにして、患者さんが今どんな苦痛や悩みを持っているのかを把握し、緩和ケアチームのメンバーと主治医や担当看護師が協力してこれに対処しようというものです。

例えば身体的な症状（特に痛みへの対応）はもっとも基本的なことで、従来も主治医が必要に応じて麻酔科医に相談するなどの対応をしてきましたが、今後は手術前の患者さんであっても何か苦痛や不安があったらチームとしてかわり出来るだけ早く対応することを目指しています。当院は精神科病棟を持っていて、精神科医や臨床心理士等のスタッフが充実し、精神心理的サポートが強化されていることも特長のひとつです。

## \* 地域の皆様へのお願い

当院では、東山梨地域の中核的な病院として地域の皆様の要望にこたえ、がんに限らずできるだけ種々の疾患に専門的に対応できるように、スタッフや施設設備の充実を図ってまいりました。また、地域の他医療機関ばかりでなく、訪問看護や介護などの関連する施設との連携を重視してまいりました。

今後は在宅医療がますます重要になってくるものと考えられます。医療費の引き下げや医師の偏在・看護師の不足など現今の非常に厳しい医療環境のもと、私共は広い視野を持ち、エビデンス（科学的根拠）に基づいた医療を行うようこれからも努めて参ります。皆様の暖かいご支援と厳しいご指導をお願い致します。

# 呼吸器科を紹介します

呼吸器科 医師 成宮 賢行

呼吸器科は現在、常勤医師4名が外来担当看護師3名を始めとする様々なスタッフの協力の下、病棟業務、気管支鏡等の検査、化学療法を含む外来診療等を行っています。

対象疾患は、気管支炎・気管支喘息・咳喘息・肺炎・間質性肺炎・肺腺維症・肺気腫・塵肺・呼吸不全気胸・胸膜炎・肺がんなど多岐にわたり、急性期から慢性期に至るまで、あらゆる呼吸器疾患に対応しています。また最近話題にのぼる事が多くなった「睡眠時無呼吸症候群」についても診断から治療まで行っています。

長引く咳や痰、血痰、微熱が続く、労作時の息切れ、胸の痛みが続く、睡眠中のイビキや呼吸が途切れるなどの症状がある場合、また検診で胸部レントゲン異常・肺機能異常を指摘された場合などは、上記の疾患の可能性があるため、呼吸器科への受診をお勧めします。

当科は、「地域医療の充実をはかる」という病院の基本方針に基づき、地域住民の呼吸器疾患の予防・早期発見・治療・リハビリ及び在宅酸素療法や在宅人工呼吸器を用いた在宅医療の推進に力を入れてきました。近年は、「**新型インフルエンザ初期治療協力病院**」「**第二種感染症治療指定医療機関**」「**がん診療連携拠点病院**」等々の指定を受け、東山梨地域のみならずまさに山梨県における呼吸器診療の基幹病院を目指し頑張っています。日頃の診療では患者様本位の医療を目指し、常に患者様の視点で患者様の立場になって考えることをモットーとしています。

他の診療科でもそうですが、特に呼吸器疾患治療には、放射線科、臨床検査室(細菌・病理・生理・生化学)、薬局(化学療法等)、理学療法室、臨床工学室など様々な分野の専門スタッフの協力が不可欠です。幸い当院には、呼吸療法認定士の資格を有する者を含む、質・量とも十分なスタッフがそろっており、緊密な横の繋がりがとれていると自負しています。また、高い技術を有する胸部外科があり、定期的なカンファレンス等により密接な協力関係が築かれており、必要に応じ外科的治療も行える体制が整えられています。

蛇足になりますが、毎年、スタッフの中から数名の者が呼吸療法認定士の試験にチャレンジし、資格を獲得しています。(これほど心強いことはありません!)

こんな当科ですが、これからも宜しく願いいたします。



## 左上から

- ・成宮 賢行(医師)
- ・宮木 順也(医師)
- ・千葉 成宏(院長)
- ・相馬 慎也(医師)

## 左下から

- ・雨宮 千恵(看護師)
- ・遠藤てる美(看護師)
- ・岩崎 良子(准看護師)

# 循環器科を紹介します

副院長／循環器科部長 浅川 哲也

循環器科外来を紹介いたします。まずスタッフ。

医師は3名で、山梨療養所時代をよく知る、わたくし浅川と、どんな時でも何故か冷静沈着な松村Dr(患者様からは時々、村松先生と呼ばれていますが本人はあまり気にしていないようです!)そして平成19年5月より赴任した年齢不詳の菅又Drです。診察日は、浅川が月・火(水)木・金、松村Drが月・水・金・土、菅又Drが火・土を受け持ち、内科診察室1番と2番で行っています。

看護師は、診察室1番の担当が平松看護師、2番が坪看護師で、両名とも身長150cm位で、時々視界から消えてしまいますが、やさしくかつとても頼りになる小さなスーパー看護師です。さらに診察予約室では広瀬、谷澤、山村らの美女軍団がてきぱきと予約を取っており、すべての業務が円滑に運ぶよう統括しているのが頼もしい矢崎外来師長です。

循環器科は、狭心症・心筋梗塞・不整脈・弁膜症・心不全・高血圧等々の診療にあたっており、その診断・治療の多くのケースに心臓カテーテル検査・カテーテル治療を要します。当院では、その設備及びスタッフが非常に充実しており、峡東地区の狭心症・心筋梗塞患者様の多くが当科に集まってこられ、経皮的冠動脈形成術(ステント留置術)等を試行しています。

また当科では、**不整脈診療**に特に力を入れており、徐脈性不整脈に対するペースメーカー植え込み術や頻脈性不整脈に対するカテーテル治療(カテーテル心筋焼灼術)を試行、特にカテーテル心筋焼灼術(カテーテルアブレーション)は県下で一番の症例数を扱っており、県内各地から不整脈患者様の紹介を受けています。

このように当科の特徴は、循環器疾患であればどんな患者様に対しても適切な診療、治療ができるところにあります。そのため、時に(しばしば?)外来が非常に混雑し、患者様の待ち時間が長くなる事態が発生することがあり、大変ご迷惑をおかけしておりますが、「やさしく、親切、ていねいに」をモットーにスタッフ一丸となって一生懸命診療にあたっておりますので、今後ともよろしく願いいたします。



## 左上から

- ・平松 知恵(看護師)
- ・山村 早紀(事務)
- ・谷澤久美子(事務)
- ・坪 恵美(看護師)
- ・矢崎はる美(外来師長)

## 左下から

- ・松村 国佳(医長)
- ・浅川 哲也(副院長／診療部長)
- ・菅又 渉(医師)

# こんにちは1-3病棟です!

1-3病棟 看護師長 根津次子

当病棟は、病床50床の内科・循環器科・呼吸器科・皮膚科病棟です。年間を通し常時40名以上の患者様が入院されており、現在は看護スタッフ26名が入院生活のお手伝いをさせていただいています。

病院理念『やさしく・親切・ていねいに』をモットーに「この病棟に入院して良かった!」と患者様やご家族の皆さんから言ってもらえるような病棟作りに、スタッフ全員が一丸となって努力しています。

## 診療科ごとには

『循環器科』では、浅川副院長、松村医長、菅又医師を中心に「急性心筋梗塞」「狭心症」「不整脈」等々の治療を行っています。これらの治療には、高度な医療設備と熟練した技術が必要とされますが、当院の循環器科は高い評価をいただいております。県内いたるところから多くの患者様の紹介があります。

『呼吸器科』では、成宮医師、宮木医師、相馬医師の3名が呼吸器疾患の治療を専門的に行っています。最近「がん診療連携拠点病院」として肺がんの化学療法や緩和ケアに力を入れ高い治療実績を上げています。

## 今年度、当病棟は次の2つの目標を掲げました

- 1) インシデント(ヒヤリ・ハット事例)の内容を検証し、これをアクシデント(事故)ゼロの取り組みに生かす。
- 2) 患者様に快適な療養環境・療養生活を提供する。

私たちは日々の仕事を振り返り、見直ししながら、この目標達成に向け頑張っています。これからも、多くの患者様、ご家族の方々の声に耳を傾け、信頼・期待される病棟運営を行ってまいります。

## 【病棟スタッフ】



### ▲左から

- ・植田万裕香(看護師)
- ・松原 里佳( )
- ・根津 次子(師 長)
- ・福泉 里紗(看護師)
- ・前之園麻衣子( )
- ・小俣 智栄( )
- ・後藤さつき(助 手)
- ・谷内奈津子(看護師)



### ▲左から

- ・帯金 美佐(看護師)
- ・篠本 圭子(主任看護師)
- ・田口 雅子(看護師)
- ・相澤 真紀( )
- ・宮澤 由貴( )
- ・中沢 愛( )
- ・池谷 友希( )
- ・今福由美子(事 務)



- 左から ・下田 彩(看護師)・内藤美智留(主任看護師)・山之内瑞代(看護師)・土屋 里恵(看護師)  
・高野 金子(助手)・佐原 美香(看護師)・成田 葉子(看護師)・大川 寿枝(看護師)・荻野 香織(看護師)

# リハビリテーション室を宜しく願います

リハビリテーション室 室長 住 吉 司

「リハビリテーション=リハビリ」は、ラテン語の re (再び) と habilis (ふさわしい) に語源を持ち「再び適した状態にすること」が元来の意味とされます。

現在、リハビリの定義には多くの考え方がありますが、「障害のある人が最良の心身の状態を獲得し、年齢や障害の程度に応じ、その地域に住む人々と \* あらゆる面で同水準の生活が \* なされること。( \* あらゆるとは社会的、教育的、職業的、経済的、文化的な意味で、 \* なされるとは主体的に生活を送ることが出来ない人を除外しない為です。)」という、広い範囲で多くの人々への配慮が読み取れるこの内容がよく用いられています。

2001年に国際生活機能分類がWHOで採択され、生活機能の三つのレベルが低下した状態を「機能障害、構造障害」「活動制限」「参加制限」とし、それぞれを総称して「障害」と呼ぶこととなりましたが、その際「障害」そのものが持つマイナス面を補うというのではなく、より積極的に「生活機能」の向上というプラス面からリハビリを考えるようになりました。

私たちリハ室スタッフ、PT(理学療法士)8名、OT(作業療法士)5名、ST(言語聴覚士)1名、事務1名はこの「生活機能」の向上に向け全力を出し合っています。

**【急性期のリハビリ】**は、早期離床と廃用症候群の予防が使命です。

これには様々な診療科からのオーダーが出ますが、そのたびごとに医療における多くの知識、技術に触れ、正確な習得の必要性和安全の重要性をかみしめるたびに身の引き締まる思いでいっぱいになります。

**【回復期のリハビリ】**は、集中的に十分なリハサービスを提供することを心掛けています。

ADL(日常生活動作)を改善することにより自宅復帰を推進し、また在宅への移行に際しては、介護保険サービス事業者や市町村の関係部署等と十分な連携を取るよう努めています。

**【慢性期のリハビリ】**では患者様との信頼関係を特に大切にしています。また入院生活における様々なニーズに迅速に対応出来るよう日頃から準備をしています。

様々な疾患や、時期における最適なりハビリを正確に安全に提供するため、スタッフ一丸となってこれからも努力してまいります。今後ともどうぞ宜しく願い申し上げます。

## 【作業療法(OT)室・言語聴覚(ST)室スタッフ】



左上から 樋川主任 OT・小林 OT・勝俣 OT  
宮内 ST

左下から 宮本(事務)・上島 OT・水上 OT

## 【理学療法(PT)室スタッフ】



左から 中島主任 PT・生田 PT・富永 PT・坂本 PT  
住吉室長・山下 PT・雨宮 PT・種市 PT

# 一緒に始めましょう! ～院内手話サークルの紹介～

～ 病院で聴こえない方に出逢ったことはありますか? ～

～ 来院された聴こえない方とのコミュニケーションはどうしていますか? ～

～ 筆談? でもそれだけで十分に伝わっているのでしょうか? . . . . . ～

昨年の 8 月、ある聴こえない方の入院・手術をきっかけに、以来、院内で手話通訳をさせて頂く機会が増えました。手話がいろいろな部所・職種のスタッフの目に触れるにつれて興味を持ってくださる方が増え、今年度から院内手話サークルを開始する運びとなりました。

メンバーは看護師、事務、放射線技師、作業療法士、言語聴覚士、ケースワーカーで現在 20 名。当院の他「塩山市民病院」からの参加者もいらっしゃいます。

学習の内容は日常会話・医療場面での単語を中心に、テキストの他に教材の工夫をしたり、伝わる楽しさを体験できるよう聴こえない方を講師に招いたり、まだまだ試行錯誤中 . . . どんな事を学習したいか参加者の意見・要望も聞きながら、みんなが楽しめる学習会にしていきたいと思えます。

..ちなみに手話の指導は、水越(まだまだ勉強中!)、相談室;野沢 舞(強力なサポーター)、外来;広瀬 浩美(影のブレイン)の美人トリオ?が務めます。 . . .

『来院される聴こえない方のサポートをしたい . . .』

『興味を持ってはいたけど、どこで勉強すればいいのか分からない . . .』etc.

職種、経験等制約はまったくありません。

手話に興味がある方はぜひ一度お越しください。一緒に勉強しましょう!

開催日時: 隔週金曜日 \*場合により変更あり

17:30 ~ 19:00 頃

場 所: 6号館1階 PSOT 室

問合せ先: 3-1 病棟 水越 (内線 3101)

代表 3-1 病棟 水越 聡子



## Shall We 生け花? ～華道サークルの紹介～

厚生会グループに華道部があることをご存知でしょうか . . . . .

月に2回、1号館6F リハビリテーション室で、日本古流の三枝一顕先生をお招きし、指導を受けています。ちなみに、日頃皆さんが目にする「人間ドック受付カウンター」と「新外来棟 1 階コーナー」に飾ってある花は、先生が生けて下さった作品です。

華道は、花材をただ剣山に刺すだけでなく、バランスを考えながら茎を切ったり、葉を丸め形を整えたりと、その花材の良さを引き出せたと思う瞬間に楽しさを感じるものだと思います。

自宅に花をちょこっと飾るだけでも気分が明るくなりますよ!

皆様、華道をやってみませんか? 男性(特に素敵!)・初心者も大歓迎、私たちが“やさしく・親切・ていねいに”面倒をみさせていただきます。興味のある方は気軽に見に来て下さい。お待ちしております。

開催日時: 不定期 \*場合により変更あり

17:30 ~ 19:00 頃

場 所: 1号館6階 リハビリ室

問合せ先: リハ室 水上 (内線 1613)

代表 リハビリ室 水上 麻理



# 職員専用ストレス相談室「ゆうゆう」から ～ ストップ・ザ・暴力 ～

私たちの身近なところで起こる暴力が、テレビや新聞で報道されることが多くなりました。身体的暴力だけではなく言葉の暴力やいやがらせも含めた、セクシュアルハラスメント、ストーカー行為、職場や学校でのいじめ、子どもや老人への虐待、夫婦間のドメスティックバイオレンス、等々です。今まで暴力に遭いながら耐えるしかなかった被害者が勇気をふりしぼって声をあげ始め、社会もようやく全体の問題と捉えて対策をとり始めています。暴力は身体だけではなく心も深く傷つけ、心の傷は様々な心身の変化を引き起こします。例えば、頭痛・腹痛などの身体症状をはじめ、不眠やイライラ、急に恐怖がよみがえったり、逆に感情がなくなってしまったように感じたり、自責の念や無力感でマイナス思考になったりします。これらはごく自然な反応であり、正しく理解されれば対処も充分可能なものです。ところが、周囲の「早く忘れなさい」「もっとつらい目に遭っている人もいるのだから」「やられるほうにも問題がある」「心にすきがあるから」などの無理解からの一言が、暴力を受けた人の心の傷をさらにおし広げてしまうのです。

今、医療の現場でも暴力への組織的な取り組みが急がれています。病院職員の患者様に対する暴力があってはならないのは言うまでもないことですが、その逆も『決してあってはならない』ことです。患者様、病院職員双方の人としての尊厳や権利が尊重され、安全が保障される病院でなければ質の高い医療は提供できません。また先に述べたような心の傷を抱えてしまう環境では、病院職員は専門職として必要な、患者様や自分に対する正しい判断ができなくなってしまうのです。

もし今、心の傷に苦しんでいる職員の方がいたら、ぜひ『ゆうゆう』に連絡して下さい。また安全衛生委員会メンタルヘルスサポート部会では、今後、職員を暴力から守るための組織的な体制づくり・マニュアルづくりに取り組んでいく予定です。

職員専用ストレス相談室（臨床心理室） 竹居 栄子



## 山梨厚生会職員ソフトバレー大会から



毎年、秋に行われる「山梨厚生会職員ソフトバレー大会」が、今年度も山梨市民体育館のアリーナを借り切って11月16日（金）17日（土）の2日間にわたり開催されました。今回で22回となる大会には、所属、病棟ごとに編成された22チームが参加し、日頃の仕事の疲れもなんのその、手に汗握る熱戦が繰り広げられました。選手はもちろん応援する側もヒートアップし、体育館は笑い拍手の渦が巻き起こり、時には悔し涙も見られる試合となりました。なにより楽しみな試合の合間取る食事「手作り派・コンビニ派・ケータリング派」とバラエティーにとみ、ワイワイガヤガヤそのにぎやかなこと！職員のお子さん達も大勢みえられ、家族ぐるみで楽しい時間をすごし、日々のストレスも吹き飛んだことと思います。

それでは、成績を発表します。優勝は、「塩山市民病院①チーム（外来・医事課混合チーム）」・準優勝「ハートフル塩山チーム」・第3位「山梨厚生病院 PS 病棟チーム」でした。試合後、夫々のチームには、賞状・金一封が山梨厚生病院；山寺副院長より授与され、無事終了と相成りました。

最後に、大会の運営に尽力してくれたスタッフの皆様には厚くお礼申し上げます。有難うございました。

看護部福利厚生委員会（外来） 保坂 千尋

編集

後記

師走に入り、忙しい日々をお過ごしのことと思います。今回表紙には、山梨厚生会の伝統行事「ソフトバレー大会」のスナップを掲げました。職員が一丸となり競技し、皆が明るく楽しく行っている様子をご想像いただければ幸いです。今、職場にもこの大会に負けないくらいのエネルギーが溢れています。

この中に身をおくだけで、5～10歳は若返りますよ、就職をお考えの看護職の方、是非私たちと一緒に働きませんか？  
(矢崎)

ご意見、自主投稿をお待ちしています。次号は平成20年5月発行の予定です。